

情報通信審議会 情報通信技術分科会
電波利用環境委員会 CISPR A 作業班(第18回)

議事要旨

1 日時：令和5年1月10日(火) 13:00~14:30

2 場所：Web会議開催(Cisco Webex)

3 出席者(敬称略)

【構成員】石上主任(東北学院大学)、田島主任代理(NTT-AT)、雨宮構成員(VCCI)、安藤構成員(JEMA)、伊藤構成員(NHK)、篠塚構成員(NICT)、曾根構成員(東北大学)、チャカロタイ構成員(NICT)、登坂構成員(JET)、永野構成員(EMCC)、中村構成員(JBMIA)、鳩野構成員(JEITA)、原田構成員(VCCI)、針谷構成員(KEC)、平田構成員(富士フイルム)、藤井構成員(NICT)、前田構成員(NTTドコモ)、三塚構成員(TELEC)

【関係者】長部関係者(VCCI)、島先関係者(VCCI)、久保田関係者(TELEC)、山中関係者(NICT)

【事務局】総務省：島田電波利用環境専門官、伊藤電波監視官、下谷電磁障害係長、木村官

4 議事概要

(1) CISPR サンフランシスコ会議 審議結果について

石上主任より資料 18-1-1 に基づき説明が行われた。

次に、WG1 の審議結果について、石上主任より資料 18-1-2 に基づき説明が行われ、藤井構成員より補足を行った後、以下の質疑応答があった。

中村構成員：審議項目 10.2 に関して、ISH(解釈票)の発行を提案していただき感謝する。提案した ISH の内容に関しては誤解している方もおり、解釈を説明する際の資料として審議内容があればと思っている。しかし、現状の WG での審議結果が非公開であることもあり、後日、審議結果についての公開版が発行されることはあるか。

石上主任：WG の議事録は作成されるが、それは公開物ではないと思われる。

次に、WG2 の審議結果について、田島主任代理より資料 18-1-3 に基づき説明が行われた。

また、AHG6 の審議結果について、I 作業班構成員の長部関係者より資料 18-1-4 に基づき説明が行われた。

(2) 電波利用環境委員会 報告書(案)について

石上主任より資料 18-2-1 及び 18-2-2 に基づき説明が行われ、以下の質疑応答があった。

- 山中関係者 : 資料 18-2-2 の 8 ページのイ (ウ) 審議結果 A について「タイムドメイン測定」との記載があるが、これはアンテナの校正にタイムドメイン測定を使うということか。
- 石上主任 : 仰るとおり。VNA(ベクトルネットワークアナライザ)のタイムドメイン機能を用いて校正を行うものである。
- 山中関係者 : 「タイムドメイン測定」ではなく「タイムドメイン校正」とした方が良いかと思う。「タイムドメイン測定」と表記した場合、妨害波の測定にタイムドメイン法を用いる事と誤解する場合がある。
- 石上主任 : タイムドメイン校正と修正する。
- 山中関係者 : また、同ページの(ウ)審議結果のGについて、「G-SAM 法」との表記があるが、初出の用語であるなら注釈を入れたほうが良いかと思う。
- 藤井構成員 : G-SAM 法(Compact-Standard Antenna Method)という名称は提案者である韓国エキスパートが名付けた名前で、あまり馴染みは無いかと思う。
- 石上主任 : 注釈を加えたいと思う。
- 山中関係者 : 続いて、同ページの(ウ)審議結果について、1~5のFragmentに分けてCDを作成するとあるが、最終的に別々にした物をどのようにまとめるのか。
- 石上主任 : 分けるという話だけで、まとめる段階での話はされていなかったように思う。
- 田島主任代理 : 石上主任の仰るとおりで、全体計画についての話はなかった。
- 山中関係者 : 了解した。B 小委員会においても複数の Fragment に分けて審議している規格があるので確認した。進め方については注視していただければと思う。
- 石上主任 : 了解した。注意して見ていきたい。
- 山中関係者 : また、6 ページの(ウ) 審議結果 A について、「放射妨害波測定用補助装置(アンテナ、試験場など)」との記載があるが、CIS/A/1323/GDV には試験場だけでなくアンテナについての議論も含まれているのか。
- 石上主任 : 主要となるのは試験場についてだが、アンテナについても記載はある。
- 山中関係者 : 了解した。

(3) その他

特段の意見なし。

以上